

皆保険制度揺さぶる

解説

厚生労働省が検討する薬価制度の抜本見直しで、超高額薬への対応策はひとまず出そろった。ただ今後さらに高価な薬や医療技術が開発される可能性は高い。年間で兆円レベルの医療費がかかる薬が登場し

超高額薬

たとき、国民皆保険を前提とする医療保険のシステムが耐えうるか。そこまで視野に入れておく必要がある。

(1面参照)

厚生省の新制度は、売上高や利益が大きくなった高額薬を随時値下げできるのが特

徴。薬価改定を原則2年に1回とする現状から前進する。

オプジーボでは一部学者が

が登場すれば、今の医療保険では抱えきれなくなる。

国民皆保険の導入当初、高

年間1兆7500億円の医療費増につながると指摘、年間約9兆円の薬剤費をひとつの薬が2割押し上げる計算が明

額薬の登場は想定されていない。だが将来的には人工知能(AI)の発達で、画期的で高価な新薬が生まれる可能性はある。そのとき今の医療保

かされた。実際にはオプジーボの売り上げは1千億円台に収まる見込みだが、兆円単位で医療費を押し上げる医薬品

険で何を守り、何を捨てるのか。聖域なく議論すべき時期にきている。